

高齢者の学び・つながりに関するアンケート 集計結果

令和8年（2026年）8月 福祉部 長寿安心課



内容

1. アンケートの目的

元気な高齢者に対して学びの機会の提供や社会・地域とのつながりを持つための支援を行うことで、地域での自立した生活と社会参加の促進を図り、高齢者が住み慣れた地域で孤立することなく、安心して暮らし続けられる環境づくりを目的とした（仮称）アクティブシニア支援事業の検討にあたり、高齢者のニーズを把握するためにアンケートを実施した。

2. 期間

令和8年5月26日～6月30日

3. アンケートの実施方法

紙・電子申込

4. アンケート（紙）の配布先・回収

介護予防センター（柴原・庄内・千里・高川・服部・原田）、公民館（庄内・千里・中央・蛍池）

老人憩の家（小曽根・熊野田・庄本・人権平和センター・豊中・高川・豊島北・東豊中・豊南・蛍池・堀田）



内容

5. 周知方法

- 窓口で配布
- 広報とよなか 6 月号
- 市ホームページ
- 市公式LINEセグメント配信
- 介護予防センターでの配布
- 老人憩の家での配布
- 公民館での配布

6. 電子申込でのアンケート回答者への特典

100マチカネポイント付与

7. 目標値

アンケート回収：150件

(参考) アプリアンケート：ユーザー数1,025人のうち301件回答



結果概要

1. 回答数

1,944件

2. 回答方法の割合

紙：1,566件

電子申込：378件（うちマチカネポイント付与者：321件）

3. 回答者の性別

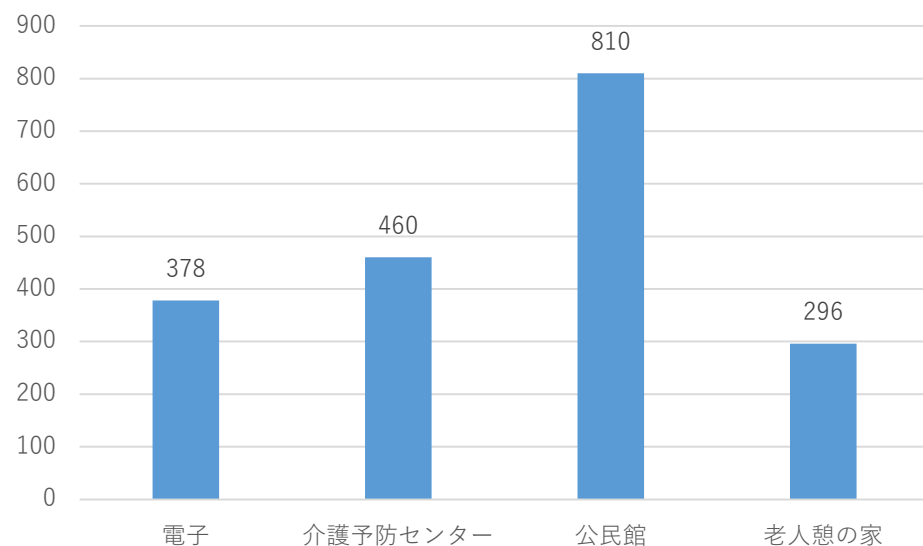
男性：442件

女性：1,470件

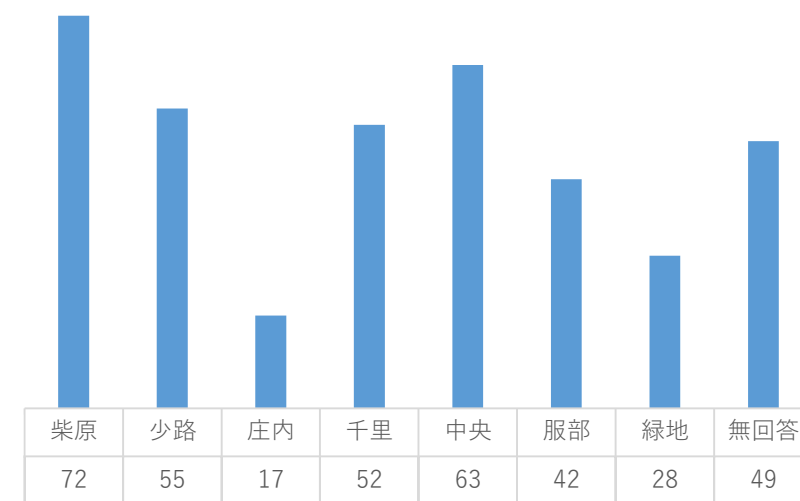
その他：7件

回答しない：25件

4. 回収場所別回答者数

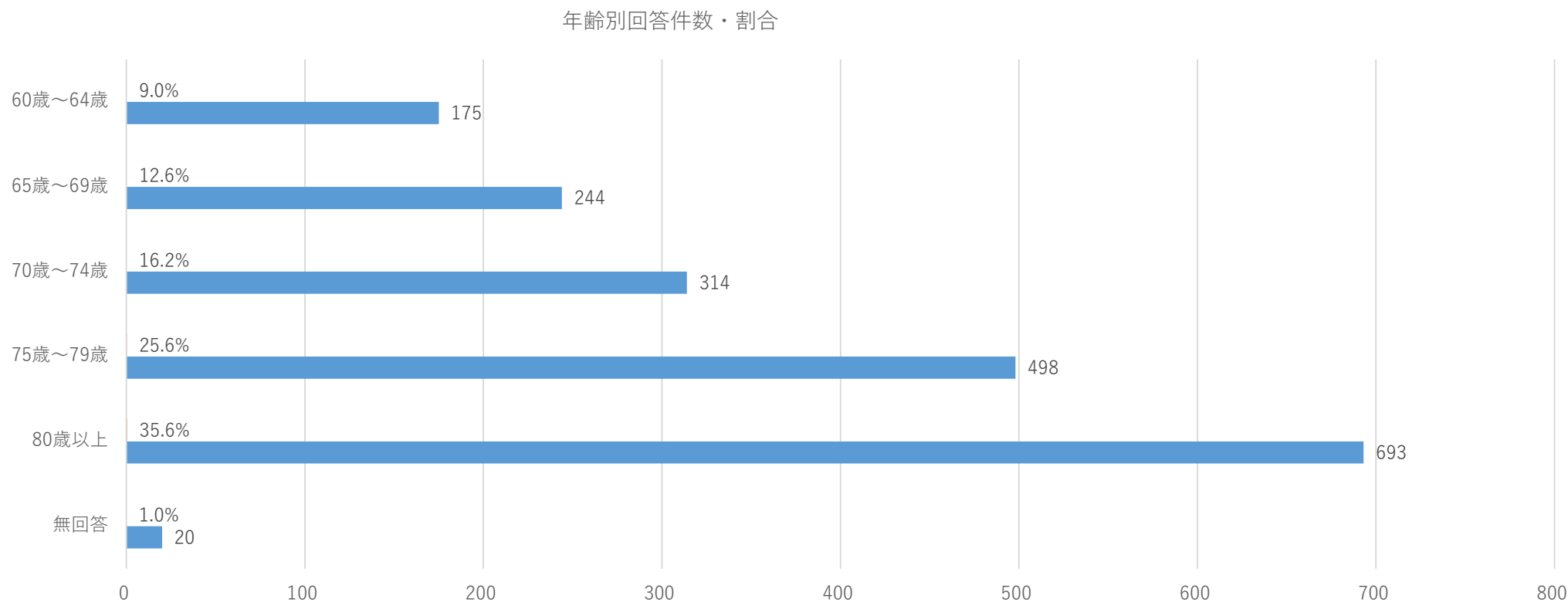


5. 電子申込回答者の圏域



回答者年代について

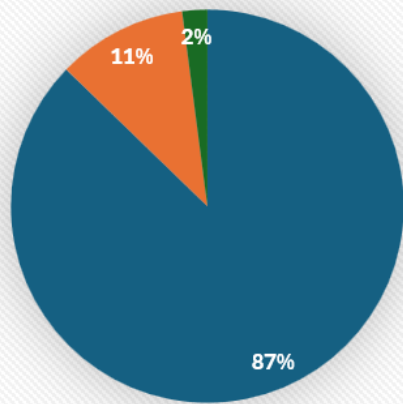
市内全体でみると、80歳以上の回答が35.6%と最も多く、次いで75～79歳が25.6%であった。75歳以上の回答者が全体の61.2%を占めており、公民館や介護予防センター等の公共施設で活動している方からの回答が多かったため、比較的高年齢層が多い結果となった。一方、60～64歳は9.0%にとどまり、若い高齢者層の割合は低かった。



要介護認定の有無

市内全体でみると、「要介護・要支援なし」が87.2%と大部分を占めていた。一方、「要介護・要支援あり」は10.7%であり、約1割の回答者が介護認定を受けている結果となった。そのうち要支援認定を受けている人が65.1%と最も多く、全体の約3分の2を占めていた。一方、要介護認定を受けている人は3.3%と少数であった。

要介護・要支援の認定



■ なし ■ あり ■ 無回答

認定なし

1696

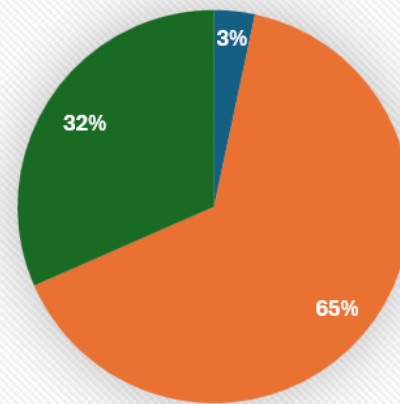
認定あり

208

無回答

40

認定の種類



■ 要支援 ■ 要介護 ■ 無回答

要支援

136

要介護

7

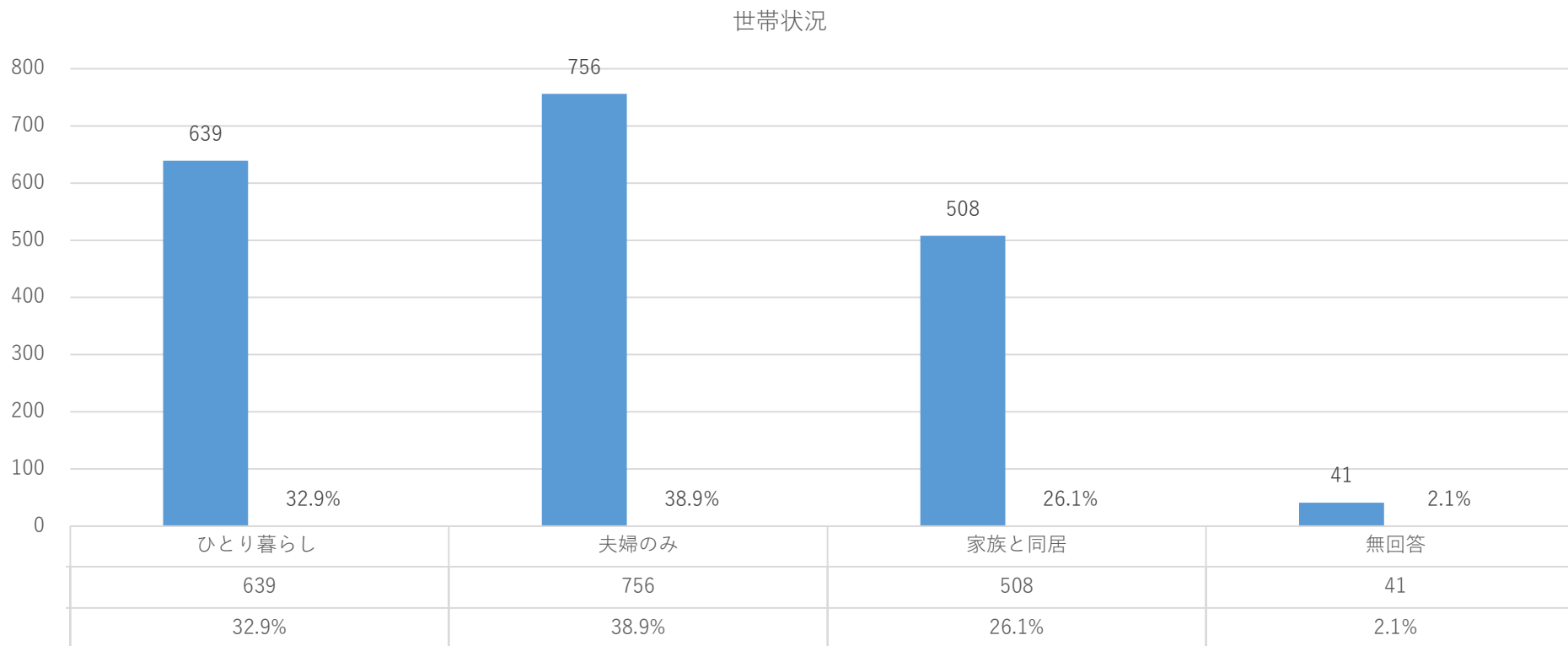
無回答

66



世帯状況

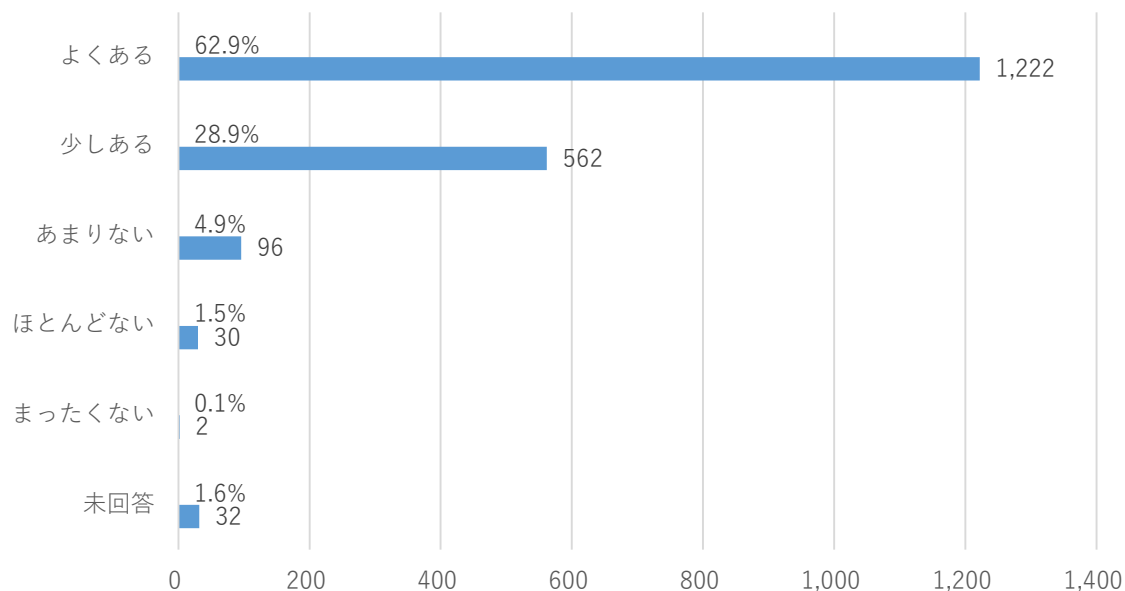
市内全体でみると、「夫婦のみ」が38.9%で最も多く、次いで「ひとり暮らし」が32.9%、「家族と同居」が26.1%であり、親族と同居している世帯は全体の約4分の1にとどまる。夫婦のみ世帯とひとり暮らし世帯を合わせると71.7%を占めており、高齢者のみ又は少人数で生活する世帯で構成されることが多い。



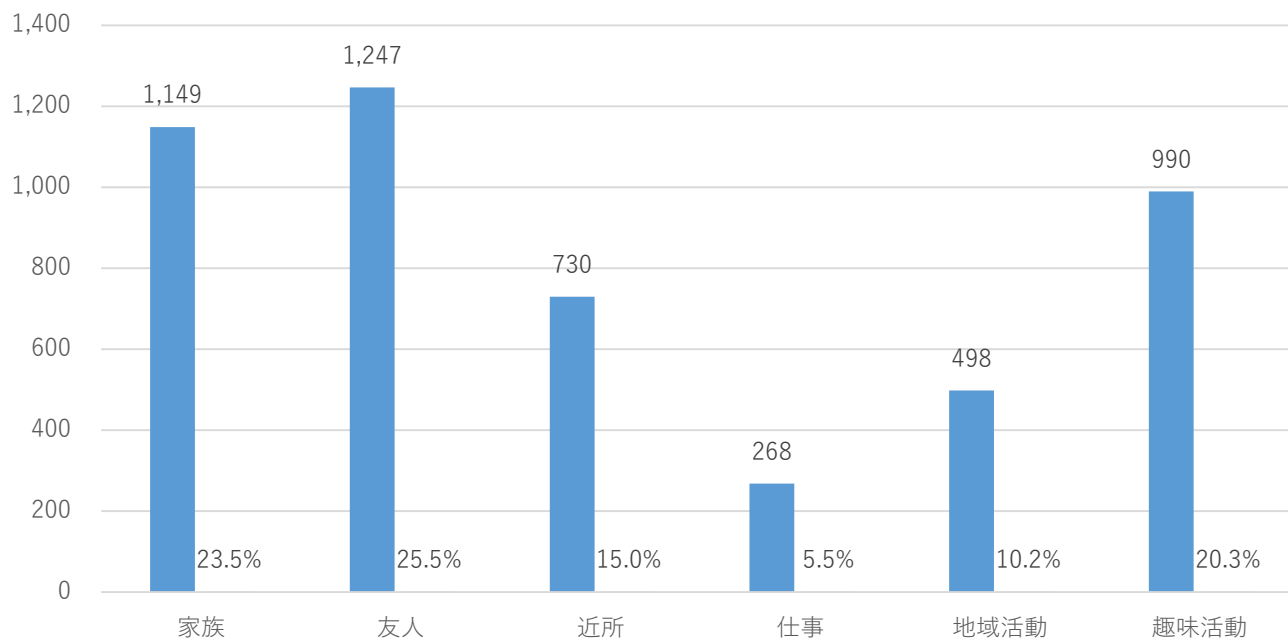
人とのつながり・つながる対象

市内全体でみると、「人とのつながりがよくある」が62.9%で最も多く、次いで「少しある」が28.9%であった。合わせると91.8%を占めている一方で、「あまりない」「ほとんどない」「まったくない」は合わせて6.6%となっていた。つながる対象については「友人」が25.5%で最も多く、次いで「家族」が23.5%、「趣味活動」が20.3%であった。身近な人間関係がつながりの中心となっている。一方で、「地域活動」は10.2%、「仕事」は5.5%にとどまっており、公的・社会的な活動を通じたつながりよりも、私的な関係によるつながりが中心となっていることがうかがえる。

人とのつながりについて

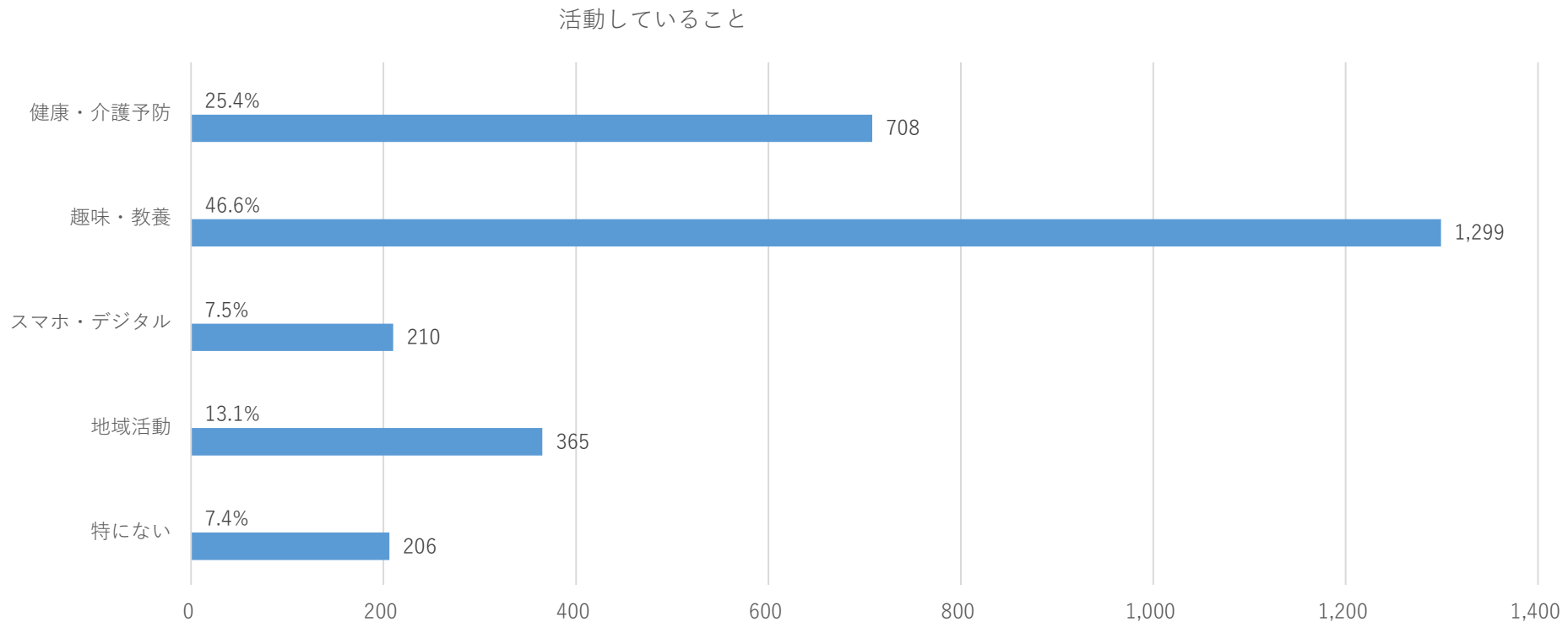


つながる対象



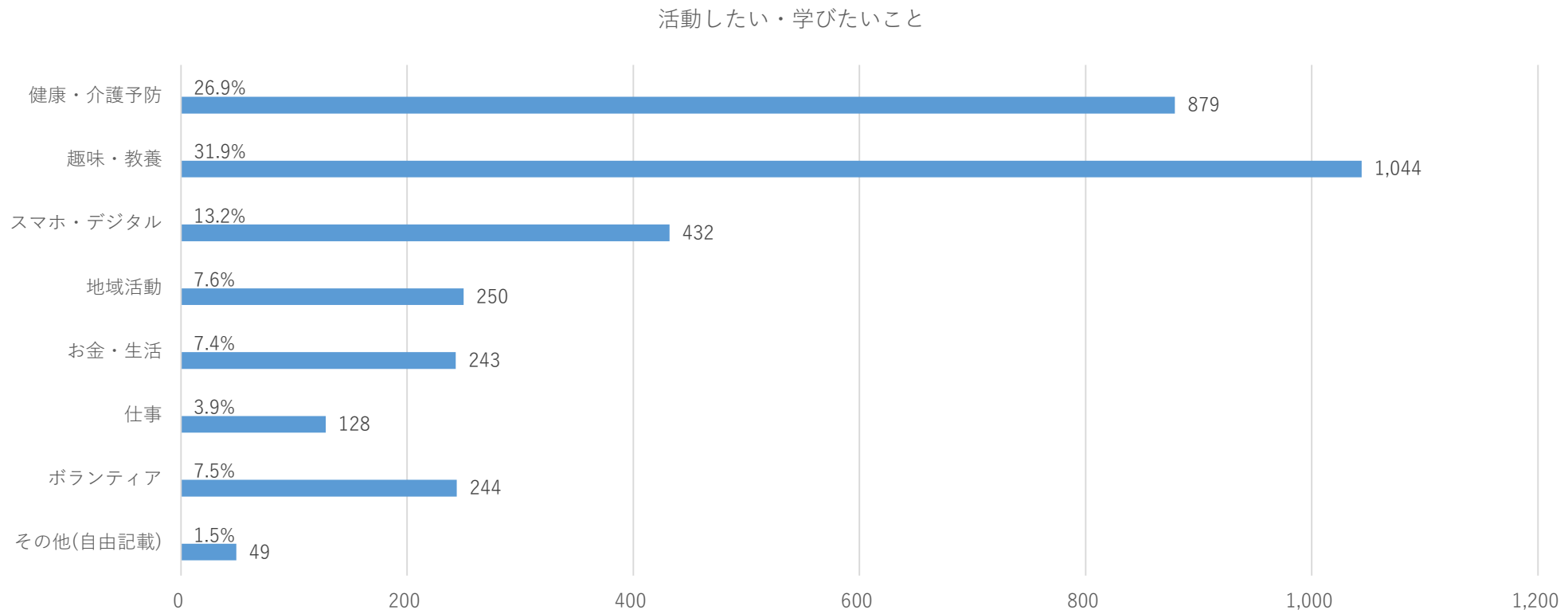
学んでいること・活動してること

市内全体でみると、「趣味・教養」が46.6%で最も多く、次いで「健康・介護予防」が25.4%であった。活動内容は趣味や学習、健康づくりに集中しており、「趣味・教養」と「健康・介護予防」を合わせると72.0%を占め、活動の中心は自身の生きがいや健康維持につながるものがうかがえる一方で、「地域活動」は13.1%、「スマホ・デジタル」は7.5%であった。また、「特にない」は7.4%であり、活動に参加していない層も一定数みられた。



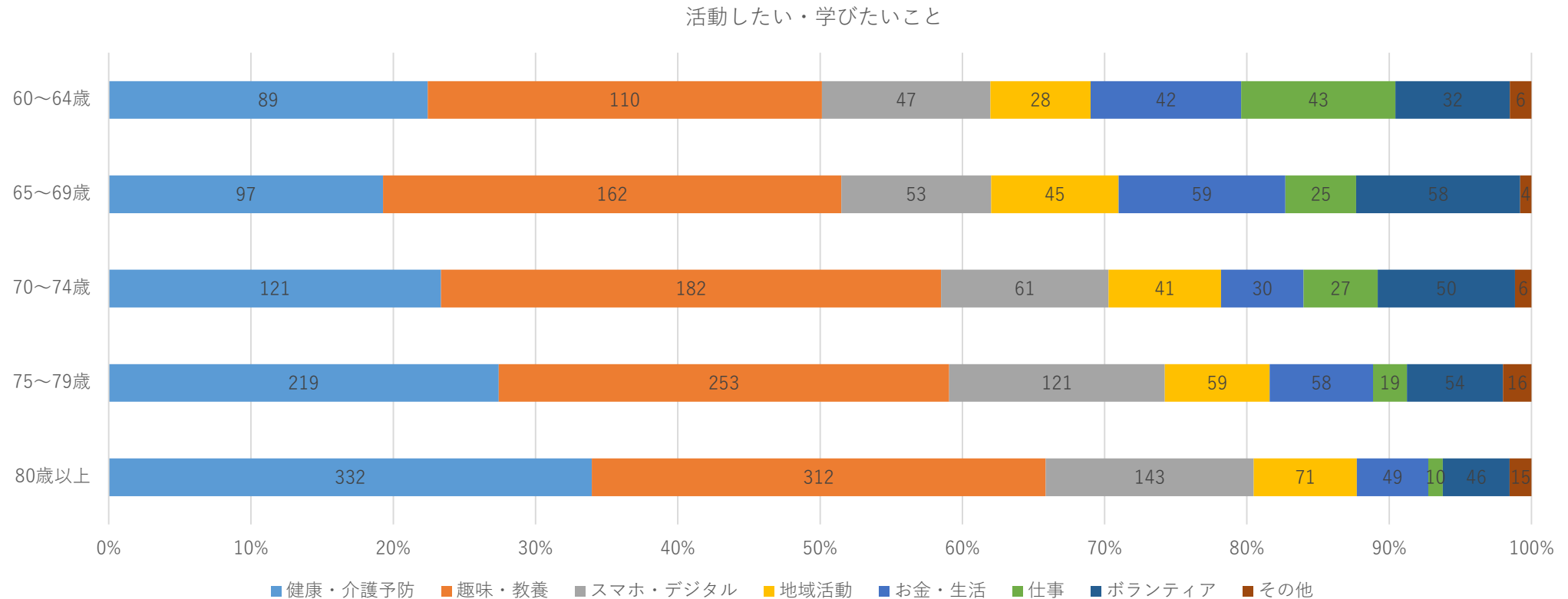
活動したい・学びたいこと

市内全体でみると、「趣味・教養」が31.9%で最も多く、次いで「健康・介護予防」が26.9%であった。趣味や学習活動、健康づくりへの関心が高く、両者を合わせると58.8%を占めた。また、「スマホ・デジタル」が3番目に多い13.2%で比較的高く、デジタル活用に関する学習ニーズもみられた。一方、「地域活動」「ボランティア」「お金・生活」はそれぞれ7%台であり、地域参加や生活課題に関する学びへの関心も一定程度存在していることがうかがえる。



活動したい・学びたいこと（年齢別）

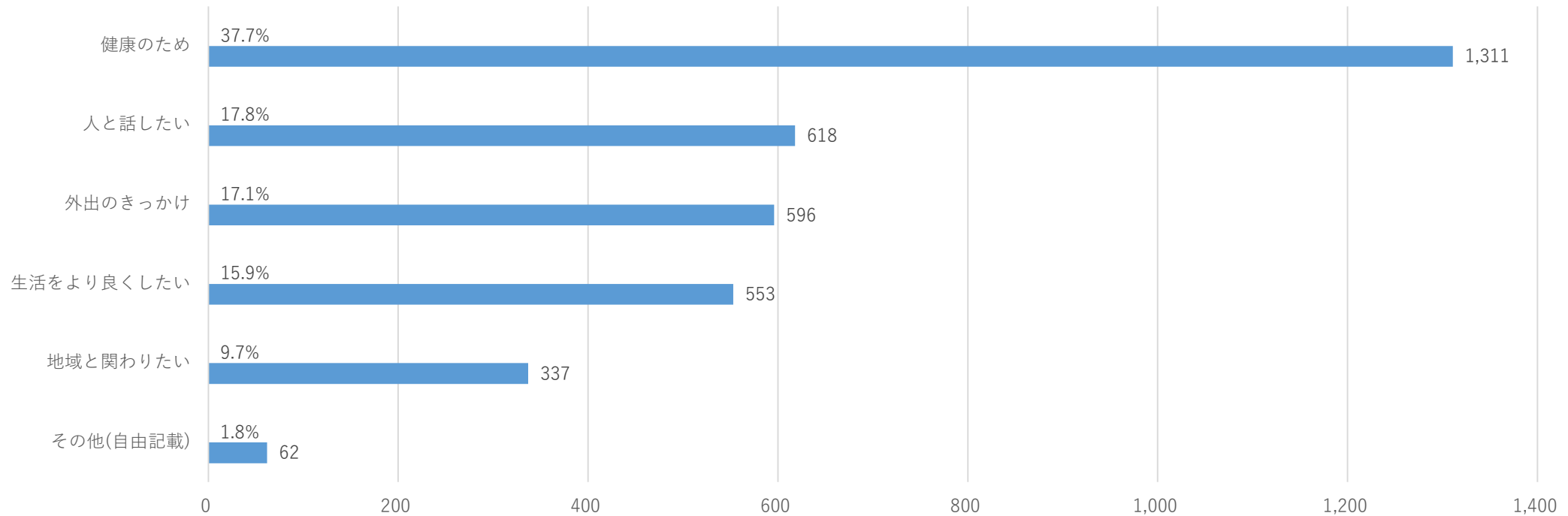
多様な年齢が高くなるにつれて、「健康・介護予防」「趣味・教養」「スマホ・デジタル」「地域活動」への関心が高まる傾向がみられた。一方で、「仕事」「ボランティア」への関心は年齢とともに減少している。



学びの場・つながりの場に参加したい理由

市内全体でみると、「健康のため」が37.7%で最も多く、次いで「人と話したい」が17.8%、「外出のきっかけ」が17.1%、「生活をより良くしたい」が15.9%であった。活動への参加理由は健康維持が中心である一方、人との交流や外出機会の確保、生活の充実を目的とする回答も多くみられた。

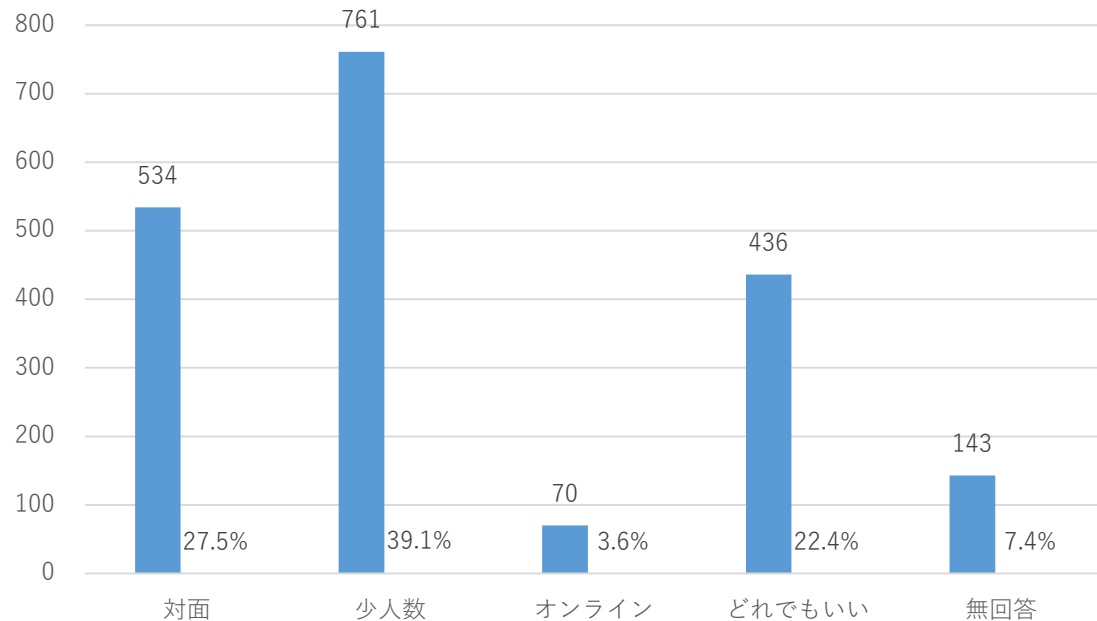
学び・つながりの場に参加したい理由



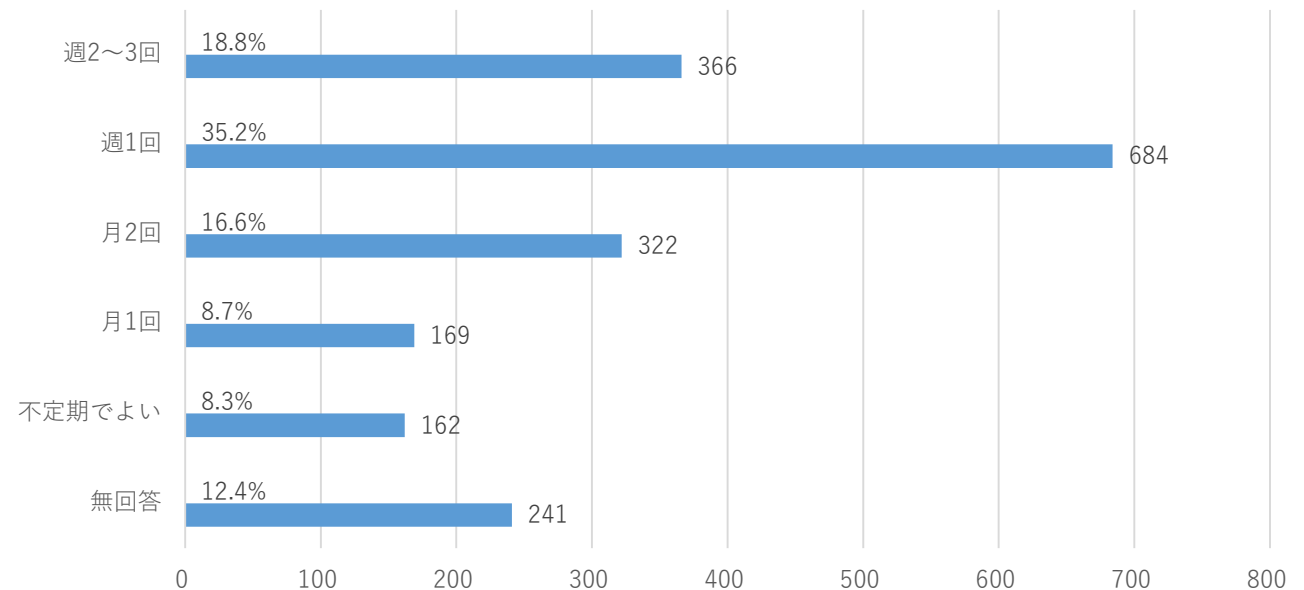
参加方法・参加頻度

市内全体でみると、「少人数」が39.1%で最も多く、次いで「対面」が27.5%であった。合わせると66.6%を占めており、活動や講座等への参加方法として、少人数による対面形式が望まれていることがうかがえる。一方、「どれでもいい」は22.4%であり、参加方法に柔軟な層も一定数みられた。参加頻度については「週1回」が35.2%で最も多く、次いで「週2～3回」が18.8%、「月2回」が16.6%であった。「週1回」と「週2～3回」を合わせると54.0%を占めており、活動や講座等への参加については、週単位で継続的な参加を希望する人が多いことがうかがえる。

参加方法

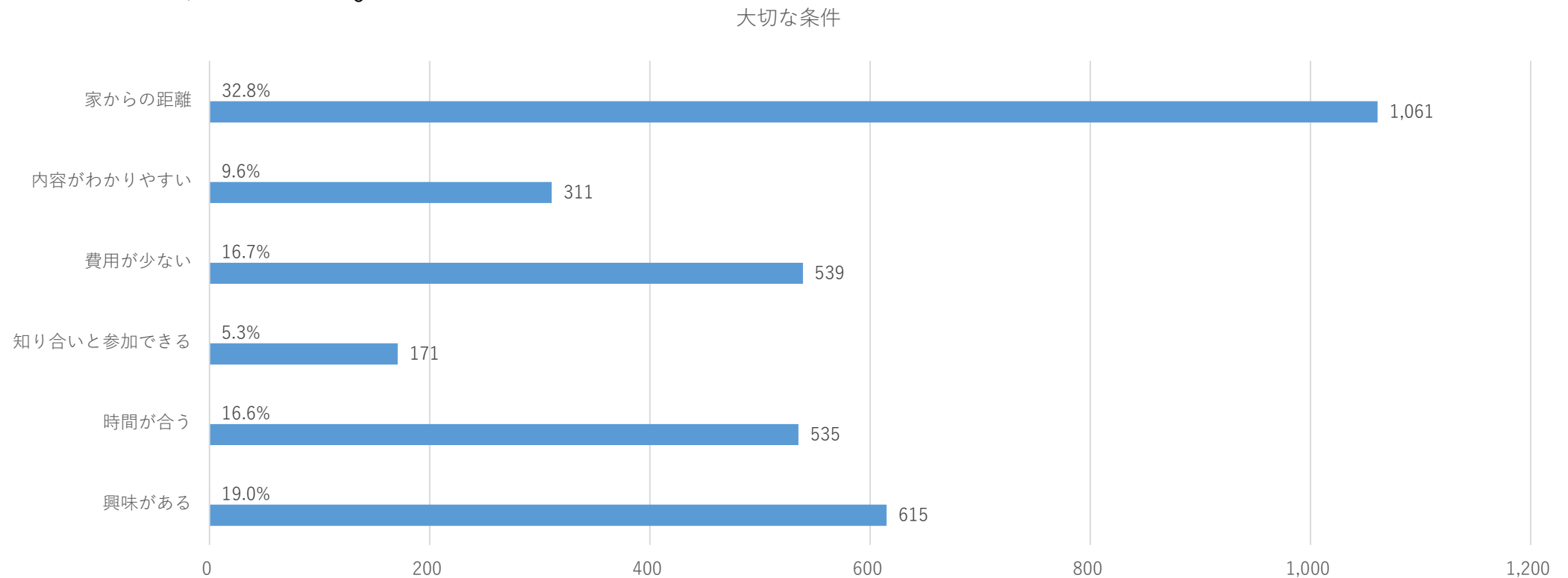


参加頻度



参加する上で大切な条件

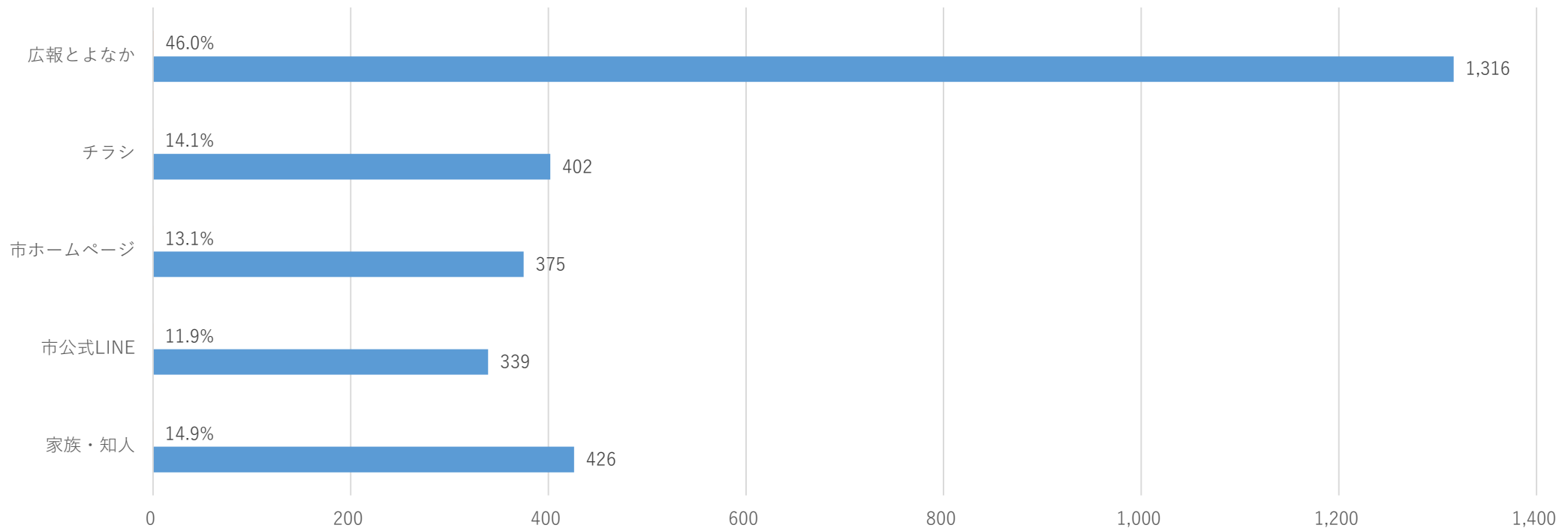
市内全体でみると、「家からの距離」が32.8%で最も多く、次いで「興味がある」が19.0%、「費用が少ない」が16.7%、「時間が合う」が16.6%であった。参加にあたっては、活動内容への関心だけでなく、自宅から通いやすい場所で開催されることが最も重視されている。また、費用や開催時間など参加しやすい環境づくりも重要な要素となっていることがうかがえる。



情報はどこから知りたいか

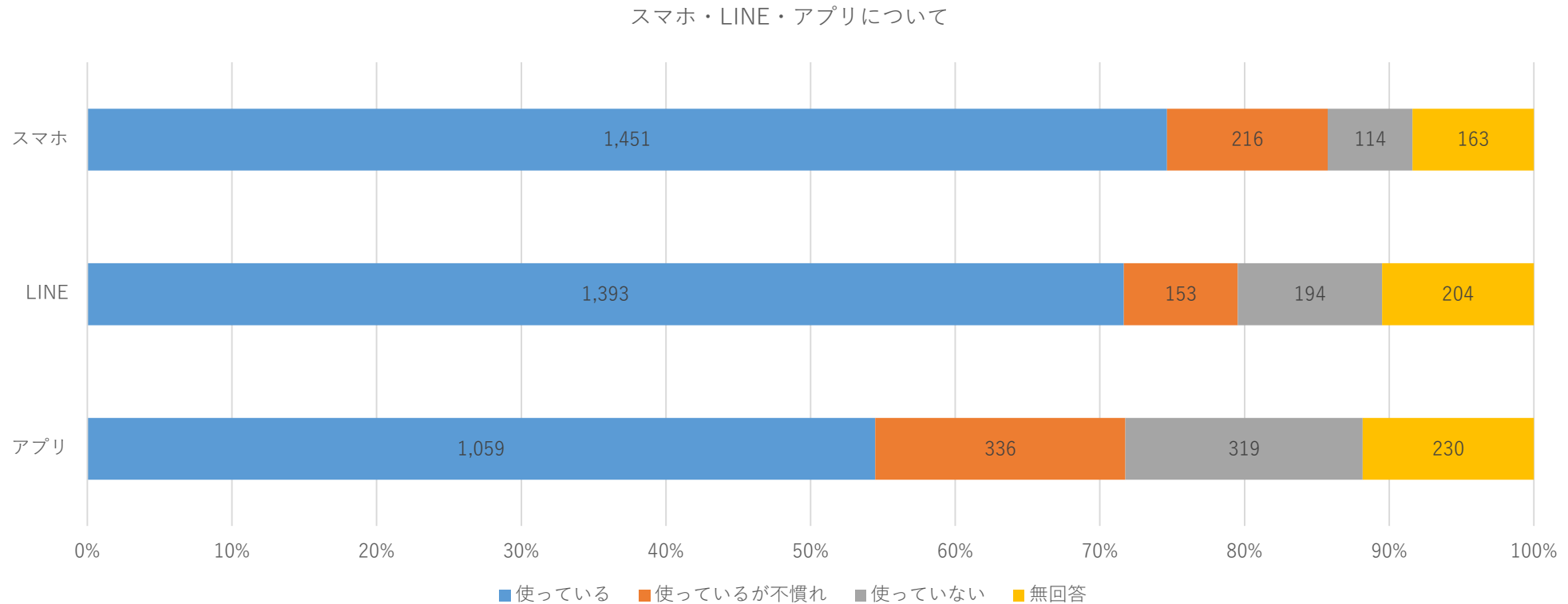
市内全体でみると、「広報とよなか」が46.0%で最も多く、次いで「家族・知人」が14.9%、「チラシ」が14.1%であった。情報取得手段としては広報誌などの紙媒体へのニーズが高く、「広報とよなか」と「チラシ」を合わせると60.1%を占めた。一方で、「市ホームページ」が13.1%、「市公式LINE」が11.9%であり、デジタル媒体を活用した情報発信の需要も一定程度みられた。

情報はどこから得たいか



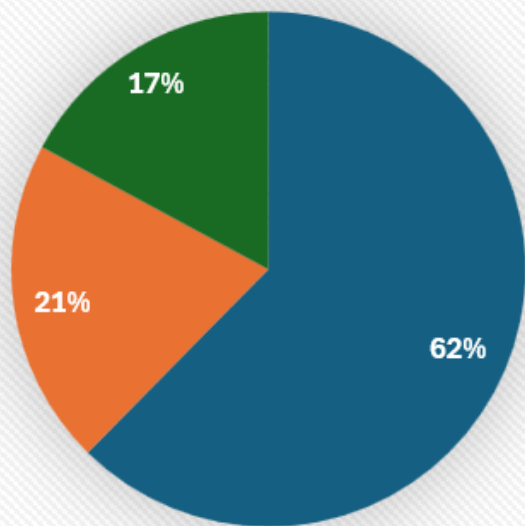
スマホ・LINE・アプリの使用について

市内全体でみると、スマホを「持っている」＋「持っているが不慣れ」は85.7%を占めており、多くの高齢者にスマートフォンが普及していることがうかがえる。LINEの使用についてはスマホ保有者が85.7%であったのに対し、LINE利用者は79.6%であった。アプリを利用している人は71.8%を占めており、多くの高齢者がアプリを利用していることがうかがえる。一方で、「使っていない」は16.4%となっており、約6人に1人はアプリを利用していない状況である。



デジタルを活用する際に困っていること

デジタルで困っていること



■ ない ■ ある ■ 無回答

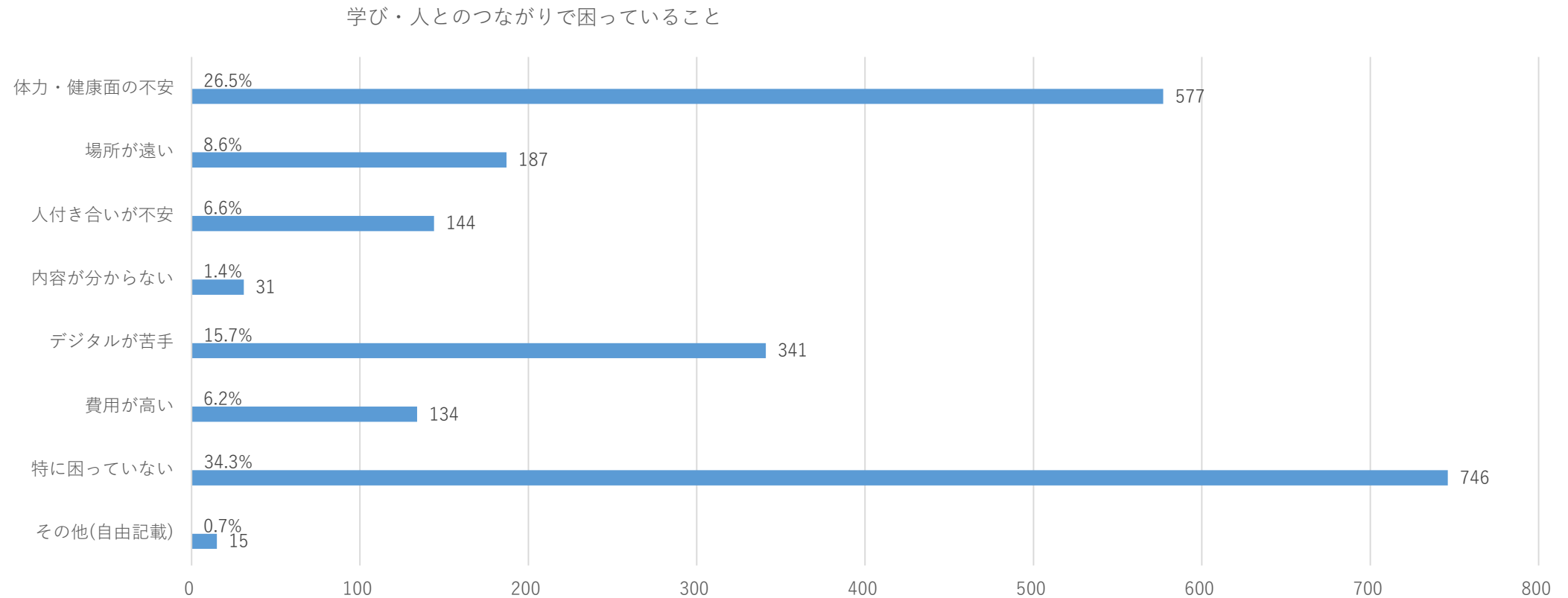
市内全体でみると、「デジタルで困っていることはない」が62.4%で最も多かった。一方で、「困っていることがある」は20.5%となっており、約5人に1人がスマートフォンやアプリ等の利用に何らかの課題を抱えていることがうかがえる。また、全体としてはデジタル機器の活用が進んでいるものの、継続的なデジタル活用支援の必要性が示された。

ない	1,213
ある	398
無回答	333



学び・人との関わりで困っていること

市内全体でみると、「特に困っていない」が34.3%で最も多く、次いで「体力・健康面の不安」が26.5%、「デジタルが苦手」が15.7%であった。活動内容よりも健康面やデジタル活用への不安が大きく、また「場所が遠い」「人付き合いが不安」といった参加環境や心理的要因も影響していることがうかがえる。



アンケート結果の概要と今後の方向性

- ✓ 回答数1,944件と高齢者の学びやつがなりに対し、高い関心がみられた。
- ✓ 回答者の約6割が75歳以上であり、元気な高齢者を中心とした回答が多かった。
- ✓ 「人とのつながりがある」と回答した人は約9割である一方、約7%は社会とのつながりが少なかった。
- ✓ 活動・学びのニーズについては、「趣味・教養」や「健康づくり」が特に高い一方で、年代が若い層ほど関心分野が幅広く、多様な学びや活動を求める傾向が見られた。
- ✓ 参加頻度は、週1回程度を希望する方が多く、参加形態としては少人数での実施を望む回答が多かった。
- ✓ 参加理由は「健康の維持」「人との交流」「外出のきっかけづくり」が中心。
- ✓ 参加条件は「自宅から近い場所」「興味のある内容」「参加しやすい費用・時間」が重視されている。
- ✓ スマホ保有率は約86%、そのうちLINE利用率は約80%であり、デジタル活用の可能性もうかがえた。

今後の方向性

アンケート結果から、「つながり」「趣味・教養」「健康」に対するニーズが高いことが確認できた。今後は、高齢者が地域で学び、つながり、活躍できるよう（仮称）アクティブシニア支援事業の実施に向けた検討を進めていく。

- 関心に応じた多様なプログラム
- 少人数での交流重視
- 身近な場所で参加できる環境

